資料 2

2023年8月28日

			取組み事項		
	ガイドライン項目	(内容)	①製-配連携(メーカー→卸拠点(小売DC含む))	②配-販連携(専用DC→小売店舗)	③配一販連携(卸拠点→小売TC)
1.	発着荷主共通取組み事項				3 1.2 1.1.1.2.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1
	■物流業務の効率化・合理化	T			
	①荷待ち時間·荷役作業等に かかる時間の把握	入出荷に係る荷待ち・荷役作業等にかかる時間を把握する	発着荷主双方で、荷待ち、荷役作業の実態を把握する 原則すべての拠点を把握する(日別、納品先別、時間、業務内容等)		
	ガガるではいりと	・物流事業者に対し、長時間の荷待ちや運送契約にない荷役作			
	②荷待ち・荷役作業時間	業等をさせてはならない。	まずゼロステップとして、附帯作業の定義(認識)を発着荷主・物流業者で合わせる 第一ステップとして、発着荷主それぞれの拠点で恒常的に2時間以上の荷待ち・荷役作業時間が発生している場合は、発着荷主、物流事業者が連携して、時間短縮を図る		
	「2時間以内」ルール	・荷待ち荷役作業等にかかる時間が2時間以内となっている荷主は、目標1時間以内としつつ、更なる時間短縮に努める	第二ステップとして、1時間以内を目指す。		
	3 物流管理統括者の選定	物流業務を統括する者(役員等)を選任し、物流の適正化・	社内および社外に対して実効性を発揮する責任者を選任し、物流適正化・生産性向上を主導する		
		生産性向上に向け他部門との交渉・調整を行う ・商取引契約において物流に過度な負担をかけているものがない	在17303よび在27日に対して天が日本の光洋する員は有を歴年し、初川地正七十五年日刊工を工等する		
実	④物流の改善提案と協力	か検討・改善する	各会議体(FSP、日食協物流問題研究会、首都圏SM物流研究会、SBM会議等)において情報を共有し、引き続き検討・改善を図る		
施が		・荷待ち時間や附帯作業の合理化要請があった場合は、真摯に 協議に応じ自らも積極的に提案する	また、関連する業界・団体・企業に広く情報発信し、活動の推進・拡大を図る		
必	■運送契約の適正化		V字M 市場 セルガルトラ - M-ラキ V草-IT/- (ロケナ・ナフ		
要な	⑤運送契約の書面化	運送契約は書面または電磁的方法を原則 ・荷主は運転者が行う荷役作業料等を支払う者を明確化し、物	運送事業者と契約書・覚書を適切に締結する 物流事業者に適正に荷役作業料等が支払われるよう、発		
事項	⑥荷役作業等にかかる対価	流事業者に適正な料金を支払う ・自ら運送契約を行わない荷主事業者においても同様	初加事来自に適宜には可な作業科寺が又近4月におより、第一 製約した業務範囲外の荷役作業は、発着荷主で作業確認を行い適正料金を支払う 着荷主は真摯に協力する		
央	⑦運賃と料金の別建て契約	運送の対価である「運賃」と、運送以外の役務等の対価である	発着荷主、物流事業者間で協議し、「料金」の詳細を定 発着荷主、物流事業者間で運送以外の役務を要する事項は、契約書に明文化し、これを支払う		
	少理員C科並の別姓 (突形	「料金」は別建てで契約を原則とする	め、これを支払う		
	®燃料サーチャージの導入・燃料費等の上昇分の価格への反映	物流事業者から燃料サーチャージ、燃料費上昇、高速道路料金 実費の料金反映を求められた場合は、適切に転嫁する	物流事業者から燃料サーチャージ、燃料費上昇、高速道路料金実費の料金反映を求められた場合は、協議の上、改定内容を契約書に明文化し、適正料金を支払う。		
		元請事業者が下請に出す場合、⑤~⑧の対応を求めるととも			
	●下請取引の適正化 - ★☆★ #イロー/トーササンクス の中央の7/2/2/2/2/2/2/2/2/2/2/2/2/2/2/2/2/2/2/2	に、特段の事情なく多重下請が発生しないよう留意する	下請状況の実態を把握する		
•	輸送・荷役作業等の安全の確保	天 異常気象が発生または発生見込みの場合は無理な運送依頼を	Ē.		
	⑩異常気象時等の運行の中止・中断	行わない。物流事業者が運行中止を判断した場合はこれを尊重	異常気象が発生または発生見込みの場合は無理な運送依頼を行わない。物流事業者が運行中止を判断した場合はこれを尊重する		
Ш.	 ■物流業務の効率化・合理化	वि			
			 待機削減効果が見込まれる場合は導入を進め、個別に		
	⑪予約受付システムの導入	システムを導入し、荷待ち時間を削減する	存機削減効果か見込まれる場合は導入を進め、個別に 生じる課題は、協議解決を図る		待機削減効果か見込まれる場合は導入を進め、個別に 生じる課題は、協議解決を図る
	9191 ml ** 0 ** 11	パレット等の活用について提案があった場合には協議に応じ、積	T-11型プラスチックパレットを標準とし、パレット納品を推進		T-11型プラスチックパレットを標準とし、レンタルパレットでの
	⑫パレット等の活用 	極的な活用を検討する	する		納品も含め推進する
	③入出荷業務の効率化に資	・適正な数のフォークリフトや作業員等、荷役に必要な機材・人員を配置する	・着荷主は、フォークリフトや作業員の不足により作業が滞		・一定物量以上の納品は、手降ろしから搬送什器への積
	する機材等の配置	・入出荷業務の効率化を進めるためデジタル化・自動化・機械化	らないよう適切な措置を取る ・納品伝票電子化の実現に取組む		付け納品に切替を推進する ・伝票レスと受領データを推進する
	(4)検品の効率化・検品水準の	に取組む 検品の効率化・適正化を推進し、返品に伴う輸送や検品時間を		(出荷量 在庫量)に応じた出荷単位を設定し、検品頻度	
実	適正化	削減する		ASNを活用した検品レスの実現に取り組む	
施	⑤物流システムや資機材 (パ	データ・システムの仕様やパレットの規格等について標準化を推進	・T-11型プラスチックパレットを標準とし、パレット納品を推進する	・T-11型プラスチックパレットを標準とし、	レンタルパレットでの納品も含め推進する
が 推	レット等)の標準化	する	連9 ・標準化された納品伝票電子化の実現に取組む	・伝票レスと受領	データを推進する
奨	⑯輸送方法・輸送場所の変更	幹線輸送と集荷配送の分離、集荷・配送先の集約等を実施す	着荷主と先行在庫、マザーセンター化を検討する	店舗配送を効率化する手段として、サテライト拠点からの	得意先センターから距離が近い卸と同居もしくは共同物流
され	による輸送距離の短縮	8		店舗配送を検討する	を検討する
る 事	②共同輸配送の推進等による	他に荷主との連携や積合せ輸送の実施により、積載率を向上す	車両の相互活用を検討する 共配荷主の配送条件の調整を行う (リードタイムや納品	 エリア・方面別に共同店舗配送を検討する	・納品先センターより引取り物流を推進する
項	積載率の向上	ত	時間・曜日等)		・他企業との共同TCセンター・店舗配送を検討する
	■運送契約の適正化 	T	_		
	⑱物流事業者との協議	運送契約の条件に関して、積極的に協議の場を設ける	最低限年1回は物流事業者との契約条件に関する協議機会を設ける		
	O + 1+1485 - 2117		 拘束時間の短縮が見込める際は、配送ルート再設定を検	拘束時間の短縮が見込める際は、店着時間の変更と配	納品先センターとの指定着荷時間から、計画的な高速道
	⑨高速道路の利用	拘束時間削減のため、高速道路を積極的に利用する	討する	送ルート再設定を検討する	路利用を検討する
	②運送契約の相手方の選定	物流事業者の選定にあたり、法令遵守状況や、働き方改革・安全性向上への取組みを考慮する	物流事業者の	法令遵守状況や、安全性向上への取組みを定期的に共有	する場を設ける
•	■輸送・荷役作業の安全の確保				
	②荷役作業時の安全対策	労災の発生を防止するための対策を講じるとともに、事故が発生	・「自主荷役」(乗務員によるフォークリフト荷役)の位置 づけを継続協議し、乗務員の安全を担保する		・納品先センターの安全確認を行い、必要に応じて改善を
	⊕ PIXIFX-VUX IAIX	した場合の賠償責任を明確化する	・納品環境の安全確認を行い、必要に応じて改善を行う	行う	行う
	発荷主としての取組み事項		メーカーとして対応する事項	センター運営者として対応する事項	納入ベンダーとして対応する事項
	物流業務の効率化・合理化①出荷に合わせた生産・荷造り	出荷時の順序や荷姿を想定した生産・荷造り等を行い、荷役時			No. of the second secon
必要	等	間を短縮する	出荷の庫内業務と配送業務の引き渡しルール化により相互に負荷が偏らない運用を構築する		
な 事 項	②運送を考慮した出荷予定時	運転者が適切に休憩を取れるよう出荷予定時刻を設定する	1日の拘束時間と翌日運行開始までの休憩時間を考慮した配送ダイヤグラムを設定する		
	刻の設定 ■物流業務の効率化・合理化				
			・適切なリードタイム確保によって、必要な車両数を事前に		
実施	③出荷情報等の事前提供	物流事業者や着荷主の準備時間を確保するため、出荷情報等 を早期に(可能な限り出荷の前日以前に)提供する。	案内する ・入荷予約運用拠点は、前日までに納品予定台数の予		
が		ETAME (*JIBOREZEHEAMISERE) BENZOO	約を行う		
推奨	④物流コストの可視化	着荷主との商取引において、基準となる物流サービス水準を明確化し、サービスの高低に応じてコストを上下させるメニュープライシン	「基準となる物流サービス水準の明確化」と「サービスに応じたコスト設定」につき、真摯に協議する(「物流事業者への還元」を原則とする)		
さ れ		グ等の取組みを実施し、物流効率に配慮した発注を促す	至手にある物がルグ ころが手が対理性に同じ! グ ころにかびにコスト BX足」にフロッ共手に脚勝する (下物がデ光音・や)を/ (口) とかだりこう の)		
る	⑤発荷主側の施設の改善	物流施設の集約、新増設、レイアウト変更等必要な改善を実施 する	出荷準備、回収品の配置に十分なスペースを確保する		
事項	⑥混雑時を避けた出荷	渋滞や混雑を避け、出荷時間を分散させる	着荷主と協議し、効率化を検討する		
	⑦発送量の適正化	日内・曜日・月波動の平準化や、隔日配送化・定曜日配送化	着荷主と協議し、納品量と頻度の適正化を検討する		
3.	着荷主としての取組み事項	等の納品日集約等を通じて発送量を適正化する	受け入れるセンター側として対応する事項 小売業店舗として対応する事項 小売業TCセンターとして対応する事項		
	■物流業務の効率化・合理化				
必要な事項	①納品リードタイムの確保	輸送手段の選択肢を増やすために、納品リードタイムを十分に確保する	「納品日前々日の午後1時発注締め」を早期に実現し、 最終的に「午後3時発注締め」を目標とする		特売・新製品発注の卸受信日は納品日6営業日前まで」 期実現に努める
実	」 ■物流業務の効率化・合理化	····· •	本文ポンプ 1 大人でも、プログトルをしまっています。	で口伝()、干!	
施が		日内 (朝納品の集中)・曜日・月波動の平準化や、適正量の 在庫の保有・発注の大口以及化等を通じて発送を適正化する。即		発荷主と協議し、納品量と頻度の適正化を検討する	
推奨	②発注の適正化	在庫の保有・発注の大ロット化等を通じて発送を適正化する。取引先がメニュープライシングを用意している場合はそれを活用する		アロッユと同時ない、作3日単と変反とと起じても代別 とる	
	③着荷主側の施設の改善	物流施設の集約、新増設、レイアウト変更等必要な改善を実施 する	物量に応じた必要な接車可能バース数の設定を行う物量、納品車格に応じた必要な荷受け場所の改善を行う		
れ る	④混雑時を避けた納品	渋滞や混雑を避け、納品時間を分散させる	発荷主と協議し、効率化を検討する		
事項	⑤巡回集荷(ミルクラン方式)	着荷主が車両を手配し、巡回して集荷する方がより効率的となる 場合は、発荷主と合意の上導入する	車両の相互活用、引取り物流を検討する		
	業界特性に応じた独自の取組み	1700日は、元四上5日恩ツ上等人する			
	①賞味期限の年月表示化		・賞味期間1年以上商品の早期賞味期間延長・年月表示化を実現する		
			・1年未満商品の年月化も検討する		
	②「1/2ルール」の完全実施		「製配間の納品限度は原則2/3残し」を推進する		京則1/2残し」を推進する
	③ E D I の推進		FAX発注削減を取り組む		発注を推進する 品を推進する
1				IAME MI	
!					